

修士論文

徳永研究室の修士課程2年の2人が修士論文を執筆し、無事審査を通りました。

筒井理君の題目は「超音波を用いた層状ディラック電子系 $\text{Ba}_{1-x}\text{Sr}_x\text{MnBi}_2$ における電子・格子状態の解明」で、磁場誘起構造相転移の背景にある電子状態について、量子振動の詳細な解析から半定量的に議論しています。

平野颯人君の題目は「強磁場下における極性半導体SnTeの異常量子応答」です。この物質の超音波測定で見られている振動現象の起源を探るため、磁気抵抗測定による量子振動の観察を行いました。その結果の比較から超音波の振動現象も量子振動であり、特異な電子格子結合により奇異な振る舞いを示しているという解釈を提案しました。

2人とも4月からは民間企業に転出する予定です。今後の更なるご活躍をお祈りしています。